

(電子メール施行)
農技第1013号
令和6年4月4日

関係各位

兵庫県病害虫防除所長

令和6年度病害虫発生予察防除情報第1号を發表します。

3月下旬以降の高温傾向により、小麦の生育が進み、出穂期や開花期が早まります。同じ3月下旬からの多雨傾向が今後も続く気象予報が發表されていることから、赤かび病の発生が懸念されます。現地での防除指導にご配慮願います。

令和6年度病害虫発生予察防除情報第1号 コムギ赤かび病の防除対策について

- 1 対象作物 小麦
- 2 病害虫名 赤かび病
- 3 発生地域 県南部（丹波地域を含む）
- 4 麦類生育状況、気象予報

- (1) 麦類気象感応調査(加西市、11月9日播種)によると、3月22日時点で「シロガネコムギ」の生育は主稈葉数で平年並である。「小麦赤かび病を適期に防除するための開花期予測システム」(農研機構)¹⁾によると、福崎のアメダスポイントにおいて、令和5年11月9日播種の「シロガネコムギ」の出穂期は4月8日(平年値4月17日)、開花期は4月23日(同5月1日)と予測されており、平年と比べて出穂期、開花期が7日以上早まると考えられる。
- (2) 3月下旬の平均気温は10.3℃(平年値:9.1℃、福崎アメダス)と平年比で1.2℃高く、降水量は112.0mm(平年値:41.3mm、同)で平年の2.7倍と多い。向こう1ヶ月の近畿地方の気象予報(4月4日発表)では、降水量は平年並か多い確率がそれぞれ40%、天候は数日の周期で変化するとなっている。このことから、一定の降雨が見込まれ、かつ気温は平年より高い確率が70%であることから、発病が助長される可能性がある。

5 本病の被害と発生生態

- (1) 本病は、開花期～乳熟期頃に発生し、穂の一部または全部を褐変枯死させる。激しい発生となった被害粒は白っぽい屑ムギとなり、収量や品質が低下する。さらに、病原菌が産生するかび毒(デオキシニバレノール(DON)とニバレノール(NIV))による汚染が起こる恐れがある。

本病が、最も感染しやすい時期は、開花期(約50%が開花)から開花盛期(約80%が開花)であるため、開花始期から10日間の降雨日数が多く、日最低気温が高いと発生が多くなる(農研機構「麦類のかび毒汚染低減のための生産工程管理マニュアル改訂版」より)。

6 防除上の留意点

- (1) 薬剤による麦の防除適期は、開花始期～開花盛期である。適期防除をした場合でも、発病が認められた場合は、追加防除を検討する。

- (2) 薬剤の治療効果はほとんど見込めないので発病前の予防散布が必要である。また、開花期に曇雨天が続く場合には複数回の薬剤散布が必要である。
- (3) 本病の発生がみられる圃場の麦については、かび毒 (DON、NIV) による汚染を避けるため、健全な圃場の麦と仕分けして収穫する (稲・麦・大豆作等指導指針²⁾ P.97)。
- (4) 防除薬剤については、兵庫県農薬情報システム³⁾を参考に選定し、農薬使用基準を遵守する。
- (5) 開花期予測については「小麦赤かび病を適期に防除するための開花期予測システム」を参照する。



写真 コムギ赤かび病. 左：穎の合わせ目に紅色の胞子，右：穂の褐変

- 1) 農研機構「小麦赤かび病を適期に防除するための開花期予測システム」(令和6年4月1日閲覧)

https://www.naro.affrc.go.jp/org/warc/meteo_fukuyama/WEB/wheat/index_mugi.html

- 2) 稲・麦・大豆作等指導指針 (令和6年4月1日閲覧)

https://web.pref.hyogo.lg.jp/nk12/af11_000000107.html

- 3) 兵庫県農薬情報システムは以下の URL に掲載

<https://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/hyogo>

*この情報は、兵庫県病害虫防除所ホームページに掲載しています。

<https://bojo.hyogo-nourinsuisangc.jp/>

兵庫県病害虫防除所 0790-47-1222